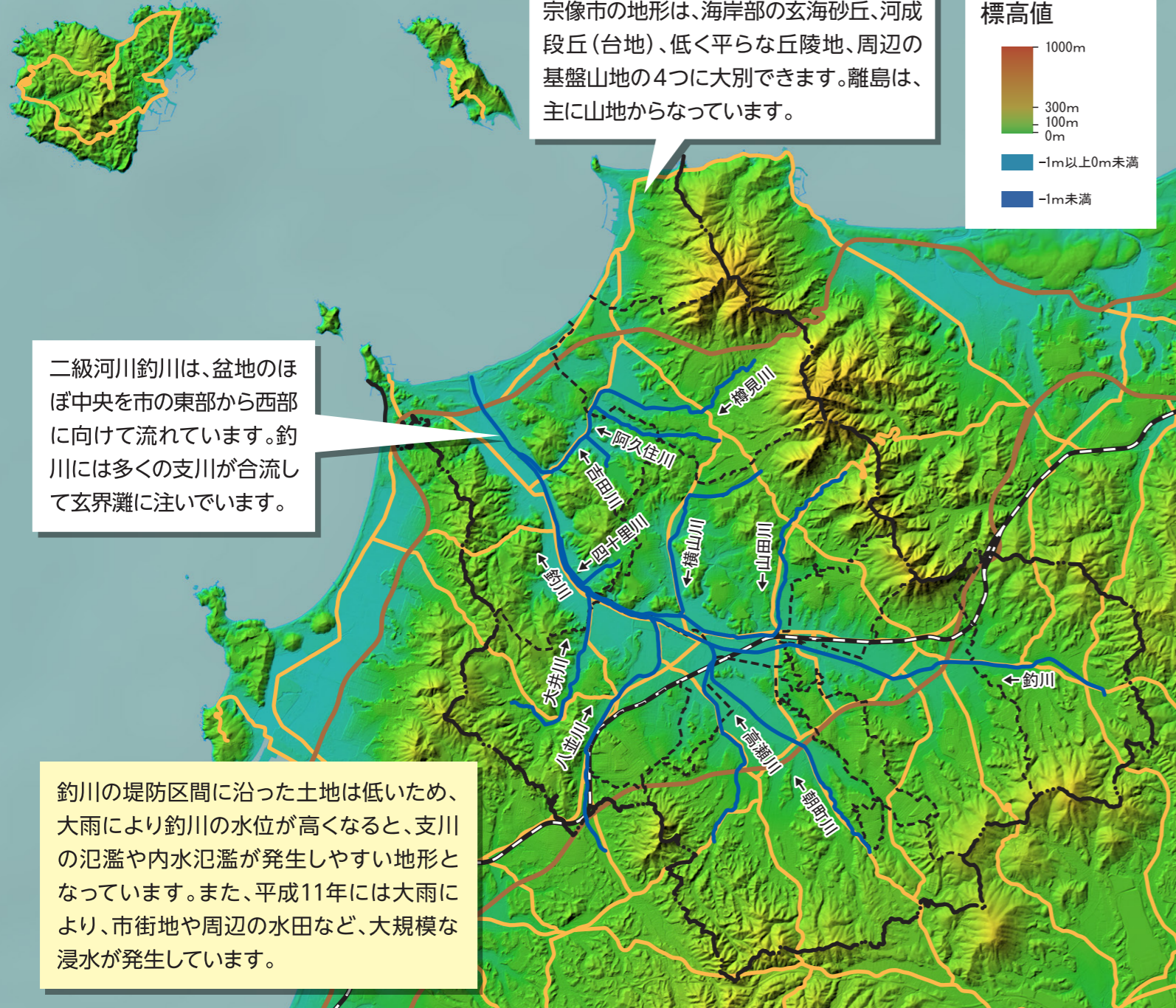


1 宗像市の地形特性と災害特性

出典:国土地理院ウェブサイト
地理院タイル(色別標高図)を加工して作成



2 過去の災害について

風水害(洪水、土砂災害、高潮など)

本市は、過去に何度も風水害に襲われていますが、幸いなことに、近年大きな被害は発生していません。

近年は、気候変動に伴う災害の激甚化・頻発化がいわれており、これまで大きな被害がなかったからといって、今後も被害がないという保証はありません。

記録的な大雨が増えているということは、大きな災害が発生する危険性も高まっています。過去の経験だけに基づいて災害の程度を判断するのではなく、ハザードマップなどに示された想定被害に備えることが重要です。



地震、津波

本市の周りには多くの断層帯があります。

平成17年3月20日には、福岡県西方沖地震が発生し、市内では震度5弱の揺れが観測され、建物被害が発生しました。

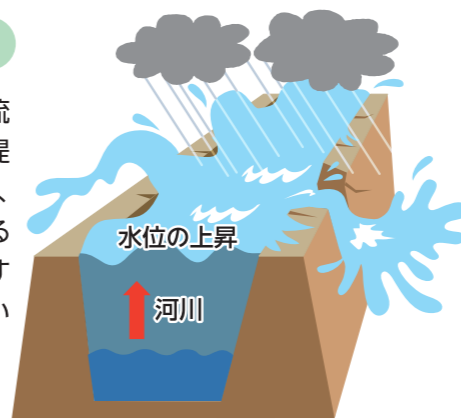
地震はさまざまな場所で発生します。住宅の耐震化や家具の固定など事前の備えをしておきましょう。

3 災害を意識する

3-1 洪水・内水発生仕組みや特徴

外水氾濫(洪水)

大雨によって河川を流れる水が大幅に増え、堤防から水があふれたり、堤防が決壊したりすることにより水が流れ出す現象を「外水氾濫」と言います。



内水氾濫

大雨により、河川の水位が上昇することで、下水道や水路からの排水ができなくなり、マンホールなどから水があふれ出す現象を「内水氾濫」と言います。



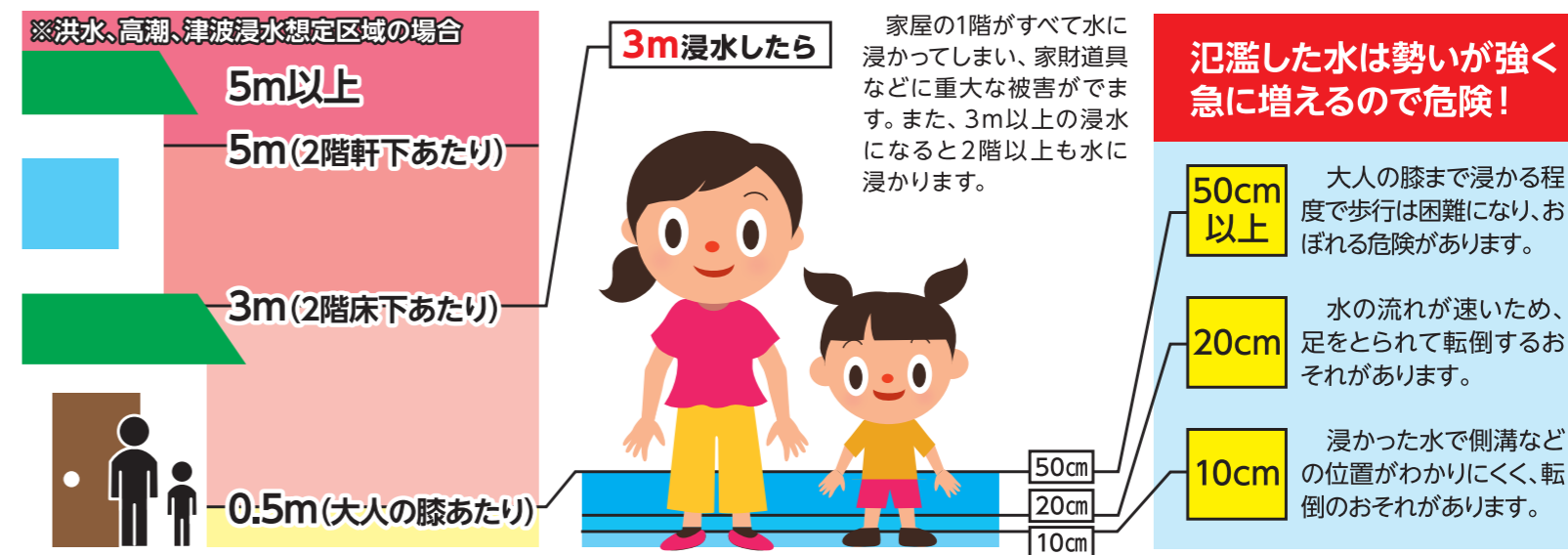
※外水氾濫より内水氾濫の方が先に発生する場合があります。また、内水氾濫発生箇所は、側溝やマンホールのふたが外れ、足元が見えなくなり転落するおそれがあるため、通行の際は注意が必要です。

洪水浸水想定区域について

想定最大規模の大雨に伴う洪水によって河川が氾濫した場合の浸水範囲と深さを洪水・土砂災害ハザードマップに示しています。

対象河川	作成年月日と作成主体	前提となる降雨
釣川、八並川、山田川(水位周知河川)	平成30年4月27日[福岡県作成]	釣川流域の6時間の総雨量543mm
樽見川、吉田川、阿久住川、四十里川、横山川、大井川、朝町川、高瀬川	令和4年5月27日[福岡県作成]	釣川流域の24時間の総雨量992mm

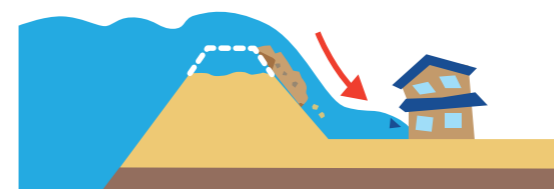
浸水想定を目安



家屋倒壊等氾濫想定区域

水位周知河川(釣川、八並川、山田川)における想定最大規模の洪水浸水想定区域をもとに家屋倒壊等をもたらすような氾濫の発生が予想される区域を示したものです。早期の立退き避難が必要な区域として注意が必要です。

氾濫流による家屋倒壊等



堤防決壊などによる氾濫流によって木造家屋が倒壊・流出するおそれがある区域。

河岸侵食による家屋倒壊等



洪水時の河岸侵食によって、木造・非木造家屋が倒壊・流出するおそれがある区域。